

ヨーロッパ文化圏研究A・B	担当：塩谷 祐人（えんや まさと）
	曜時限・校地：火曜日3限・白金

■ 授業テーマ ■	フランス（パリ）における外国人から、フランス文化を考える。
■ 授業定員 ■	10名程度（春・秋学期を通して履修可能な学生にかぎる）
■ 授業内容 ■	<p>「フランスの文化」を考えると、多くの人が文学、美術、映画、ファッション、料理などを思い浮かべることでしょう。しかし、長い歴史と豊富な文化遺産をもつフランス（とりわけパリ）においては、その文化形成において外国人の役割を無視することはできません。</p> <p>この授業ではそうした外国人を通じて、「フランスの」文化とは何かを考えていきます。また、国を超えて別の国に居場所を求めること、あるいは居場所をなくすことについても、みんなで考えていきます。</p>
■ レポート ■	パリで活躍した外国出身の人物を1名選び、その人物（あるいはその作品）について、レポートを書いてもらいます。（予定では4000字以上）
■ 成績評価 ■	学期末のレポートと授業参加（グループ発表など）で評価します。
■ 自己紹介 ■	<p>専門はフランスの現代文学で、とりわけ東ヨーロッパや中央ヨーロッパから亡命してフランスに移り住み、フランス語で執筆する作家たちの研究をしています。</p> <p>明治学院大学のフランス文学科の卒業生で、在学中にエクス政治学院に留学。その後、明治学院の大学院に進み、パリ第Ⅶ大学への留学を経て明治学院で博士号を取得しました。現在は教養教育センターに所属しています。</p>
■ 研究領域 ■	<p>フランス現代文学を中心とした亡命者の文学（ミラン・クンデラ、アンドレイ・マキエヌ、アゴタ・クリストフなど）、越境文学、世界文学。</p> <p>最近はフランス語語学教育、食文化、モード研究にも関心を広げています。</p>
■ 担当授業 ■	<p>初習外国語のフランス語（フランス語1～4）（横浜）</p> <p>ヨーロッパ言語圏の文化入門、ヨーロッパ言語圏の文化各論（横浜）</p> <p>アカデミック・ライティング（横浜）</p>
■ もう一言 ■	<p>移動が制限され、ましてや他の国に行くことなど論外という経験を我々はしたばかりです。その結果、オンラインによって現実の場を越えた交流や活動の可能性も開かれましたが、こうした経験を経たからこそ、「実際に移動する」「場を変えて活動する」「ある場所に他者として存在する」といった越境者の視点は再考に値するでしょう。現在とこれからの文化のことも考えられるゼミ的空間を学生と作っていただければと思っています。</p>
■ 申込 ■	<p>e-mail: enya@gen.meijigakuin.ac.jp</p> <p>期限：2021年3月25日</p>
■ 履修相談 ■	<p>メールにて相談（アドレスは上記の申込のアドレスと同じ）</p> <p>もし希望者が定員以上の場合は、志望動機書を書いてもらった上で、抽選・選抜をおこないます。</p>